針葉樹会・春季懇親山行報告
2011年5月28.29日

行程：八島湿原（10:10）～奥霧の小屋（10:30）～物見石（11:15）～蝶々深山（１１：５５）～車山乗越（12:15)～白樺湖堰堤（13:30)～八子ヶ峰（15：20）～アダージオ（16:20）

メンバー：　佐薙恭（31）、仲田修（36）、三井博（37）、遠藤晶士（37・偵察）、本間浩（39・宴会）、三森茂充（40）、中村雅明（43）、金子晴彦（46）、松尾信孝（48・偵察、宴会）

今回の懇親山行は従来と趣をかえて、八ヶ岳山麓のトレッキング「スーパートレイル200キロ」の一部となりました。

八島ヶ原湿原から白樺湖を経て八子ヶ峰に登り、アダージオ着という一見極めて易しそうなコースでしたが、ルートがいくつかあり、通常のただひたすら登って下りるという登山と異なり、道標が完備していない個所をルートを探しながら歩くという面白さがありました。

少人数だったこともあり、和気あいあいと歩いて、アダージオでは野鳥の話、植物の話、富士山の話、色々な思い出話など夜遅くまで懇親を深めました。

第二回のプランもたてられているようで、楽しみです。皆様方も次回はぜひご参加ください（三井　博）。

壮大なアパラチアン･トレイルの映像を見たり、信州トレイルを開発した加藤則芳さんの話を聞くにおよび、こういう遊びも悪くないとは思っていた。また万里長城や香港トレイルを著した金子さんからも、ヒマラヤトレッキングとも異なるジャンルとしての魅力を聞いていたので、今回はビギナーとして気軽に参加してみた。

しばらく前から足腰の痛みが引かず、喘息気味の体調なので、当初からハーフで上がる条件で大雨の千葉から車を飛ばして八島湿原に向かった。台風の余波の大雨やホワイトアウトもなく、ビニール傘を背負ったままハーフを終えたのはついていた。今回は下見した金子さんのおかげでルートファインディングの面白さにはかかわれなかったが、トレイルの魅力は十分に堪能できた。

この雨は誰のせいだったか大事な議論は残した。大雨が避けられたのは「誰かが来なかったため」として納得している。ちなみに、つらい坂を登るときに最近心がけていることを紹介したい。それは、同行している仲間と共通の友人で、その山行に来なかったメンバーの欠点を論（あげつら）て、さんざん悪口を言うこと。2年前倉知さんと行った芦別岳での700mに及ぶ登坂ではその効果を十分に検証出来た（三森茂充）。

今回もいろいろお世話いただきありがとうございました。この懇親山行は毎年楽しみにしています。

今年はなぜか参加者が少なかったのが残念でした。

しかし少人数が故に中身の濃い懇親ができたのはうれしい成果でした。来年も楽しみにしています（仲田　修）。

16才も　若き山友　速すぎる　(歩くスピード)

オイ！あんた　俺の年令　おもんぱかれ (こちら79才　おめ-さんは？)

さわされど　飲む酒たのし　山のあと (アダージオご夫妻、参加者有難う)

(佐薙　恭)。

今年の初頭、5月のアダージオ合宿+懇親山行の幹事を命じられた。咄嗟に八ヶ岳スーパートレイル200KM の一部を辿って、歩いてアダージオに到着するアイデアが生まれた。香港トレイルにぞっこんの身にとって、日本のトレイルが一体どのようなものかが気になっており、既に、小海周辺を幾度か歩いた。その限りは、僕の認識の「トレイル」と呼ぶにはちょっと首をかしげざるを得なかった。要は既存のルートをつないで観念上のトレイルにしただけなのだ。

アダージオの周辺には魅力的な高原が連なっている。しかし、大抵は車で通過するだけで歩いたことは無い。そこに続く八ヶ岳スパートレイルのエリア16,1,2のトレイルが候補になった。しかし、どんな所なのか想像がつかない。

スーパートレイルの副理事長 (元小海町長)) に頼んでどこが舗装道路で、地道かを書き込んだ地図を送ってもらった。それ以外にもあちこちから資料を集めた。しかし、案内が概略すぎてどうしてもイメージがわかない。そこで宿主の松尾さんに頼んで事前にあたりを歩いてもらい、つぼを得た報告を受けた。次いで山行幹事で偵察をした。

おかげで大分見えて来た。なだらかな高原なのでどこでも歩けるせいかこれと決まった道は無く、トレイルの個性も見えない。そこでトレイル近辺の気分の良い道を選んで勝手に歩くことにした。

本番ではそれまでの調査の結果、霧と小雨の悪天ながらも最も気分の良い道を歩けた、と勝手に思っている。トレイルと言うものを作るには大きな目的と粘り強い意志が必要だ。既存のルートをつなぐだけではトイルにはならない。そのことを感じた。香港のマレー･マクリホース総督は、香港返還交渉で鄧小平に木端微塵に論破された秋に100 kmトレイルの設置を命じた。香港を失うなら100kmのトレイルに自分の名前を付けて永遠に残そうと考えたのだ。実際今ではそれがその通りになっている。

アダージオではいつも通り松尾さん夫妻の歓待を受けた。楽天に代表される予約システムの変化で、毛色の違う客が来るようになり、そろそろ事業を絞って行きたいとの話に慌てた。200kmを完歩するまでにアダージオはあそこにいてくれるだろうか？ (金子)。

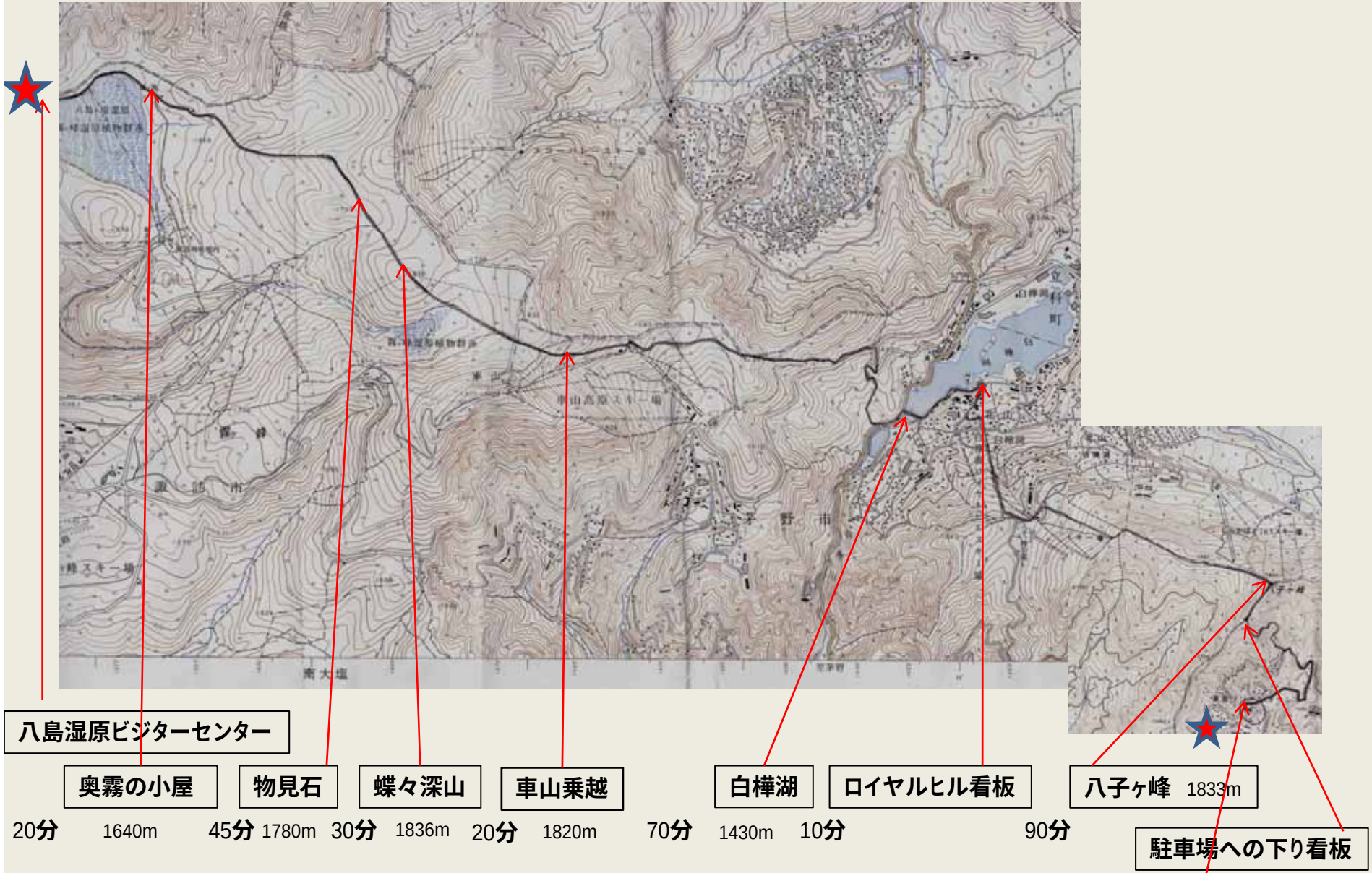
ハヶ岳スーパートレイルの計画を金子さんから聞いた時は、その新企画の新鮮さ･素晴らしさを感じました。その理由の1つ目は、私は10年以上前から熊野古道歩きを続けていますが、今回の試みはそれと同じ興趣があったことです。熊野古道歩きは舗装道路を歩く街道歩き（ウォーキング）というより、8割方山道を歩くトレッキングです。それと同じイメージを持てたので大歓迎しました。

2つ目は、懇親山行の一つの形として、丘陵、山麓を歩くトレッキングを取り入れることは、高齢化が進んでいる会の現状を考えると良い企画だと思いました。山登りの主流は100名山稼ぎに代表されるピークハントですが、「峠越え」あるいは「丘陵ワンダリング」も広い意味の山登りに入れてよいでしょう。会員の中にそれを好む人がかなりいることは、「中山道談義」の前書でも分かります。懇親山行の参加者を増やす良い企画だと思いました。

当日は、生憎の雨模様でした。「こんな天気なのに行くの。物好きねえ。」と奥さんから言われて、家を出た人が多かったのですが、小雨程度で予定のコースを完歩できて幸いでした。眺望なしは残念でしたが、金子さんのレポートにある様に「静かな霧の山稜」は、それなりの趣がありました。

参加者が少なく、下見（偵察山行？）もして準備怠りなかった幹事さんには気の毒でした。でも少人数（6名）の良さで、まとまりが良く、うちとけた雰囲気がありました。

この企画を是非続けて下さい。次回も参加します。金子さんの素晴らしい写真満載のレポート、参加者の感想を読んでいただければ、もっと参加者が増えると思います。また、今回のコースは秋晴れを狙って、またスノーシューで雪のある時期に再訪したいと思います(中村雅明)。



一帯はなだらかで、道があちこちに有り、どこを歩けばいいのかいささか迷う。松尾さんにもお願いして幾度か事前踏査をして今回のコースを決めた。ルートファインディングの楽しみは登山以上かもしれない。とりわけ八子ヶ峰北側のスキー場斜面は秀逸だ！

仲田･三井･金子･佐薙･三森･中村

八島ヶ原湿原ビジターセンター前にて

中央線上諏訪駅9時20分集合。そこからタクシー+松尾車で一気に八島湿原まで登り、ビジターセンターで千葉から車の三森さんと合流。雨は降っていないが全員完全装備。

冬枯れだと侘しい景観で、一帯が国の天然記念物に指定されている理由がいまいち分らない。
あたりの草原は日本最南に位置する高層湿原で、泥炭層の厚さは何と8mとのことだ。

ビジターセンターから車道の下のﾄﾝﾈﾙを抜けると、目の前にまるで尾瀬のような湿原が広がる。
雪解け直後と言うことで景色は冬枯れ。
はるか向こう、左にゼブラ山。右端のﾄﾞｰﾑのあるのが車山。その中央が蝶々深山。

八島ヶ池

1万年前は湖だったところにミズゴケが発生、年に1ミリずつ堆積して8mの厚みとなって湖面をふさぎ、今では水面は西の八島ヶ池と東の鎌ヶ池にしか残っていない。そこでカエルが大合唱。途中で雨がパラパラと来る。ザアッとは来ない。日頃の精進のたまもの。

気をつけないと滑るので注意

鎌ヶ池

湿原の北側を進み、鎌ヶ池を後にして、笹原の中を進むとカナダ風（？）の小屋が現れる。
奥霧の小屋ということだろうが誰もいない。ちょっと日本離れした眺めだ。ここまでは休みもとらずに
順調にやって来た。

上品な笹原の道が続く。
ただし、熊笹ではない。熊笹は京都の鞍馬地方にしか無いとか！
で、ここの笹はみやこ笹と言う（ここが都か？）。
物見石へのゆるやかな登りとなり、小さな流れを渡る。
ここにも誰もいない。

小ぬか雨が斜めに舞い、眼鏡についてよく見えない。
遠目が効かないので眠くなりながら歩を運ぶ。すぐ後ろから佐薙さんの尺八式腹式呼吸の音が聞こえる。ぼくより16歳上だ。何て元気な人なんだろう！久方ぶりの霧の山稜を楽しむ。

出発から1時間強で物見石。この石を水平に薄〻はがすと鉄平石になる。麓の村にはこの石で屋根をふいた小屋がい〻つもあった。これが今ではとても値がはる。それはともか〻、さっそ〻昼飯。

10日前の偵察の折にはもう少し視界が効いて車山頂上の丸いレーダーが見えた。車山乗越手前の佐薙、遠藤のお二人。その折は雪がぱらつき、手袋が欲しかった。遠藤さんは羽毛服で歩いた。
結構人のいる蝶々深山を下ると道は車山湿原の北端をかすめて続く。ここらの木道は乾いていた。

このコースのポイントは車山乗越から白樺湖までの400mの下り。車山スキー場の外れの稜線から下る道が色々あり、本来のトレイルは消えがち。最後のピーク1641m地点から草原をやみくもに下って、ヴィーナスラインのすぐ上を行く地道に出た。ほどなく車道を渡り、白樺湖への下りになる。偵察の折にはそのまま車道を行って大変白けたので、今回は車道の右手の林の中を下る細い登山道をとった。途中雪解け水が道にあふれていたが、どうにか白樺湖の堰堤のすぐ下に出た。そこで第一部は終了。1人は逃亡、残る5人が下ってきたと同じ高度を登り返して八子ヶ峰を目指す。

白樺湖畔の別荘地帯の中をロイヤルスキー場のリフトめがけて登る。このルートファインディングがなかなか難しく、偵察時はスキーゲレンデを直登。今回は正道を進み、スーパートレイルと書かれた指導標にやっと巡り合えた。それにしても看板は結局3ヶ所でしか見なかった。どうなってんだろう？

湖畔から300mを一気に登る。当初は笹やぶの中、後半はスキー場のスロープ。さすがにこたえる。
この日は見えなかったが、偵察の折に振り返ると広大な車山高原が見えた。疲れても皆ご機嫌。

登りきると八子ヶ峰の西方稜線。カラマツ林が広がり、新緑が芽ぶく。

ここまで出発から5時間。さすがに皆さんちょっとお疲れ。霧の中を八子ヶ峰への最後の登り。

ようやくアダージオの裏山、八子ヶ峰へ。本来であれば東西南北抜群の眺望だが本日は霧。
しかし、懸念されたほどの大雨にもならず無事歩きとおした。下りの途中、林が刈りはらわれた後に無数のぜんまいが。あわてて皆さんに声がけして収穫、あく抜きが必要だったので、自宅に持ち帰り処理して食べたが、いささか苦かった。

「雨もまた自然」とのゆるぎない心意気で完歩、結局大した雨にも会わずひたすら歩いた合宿でした。八ヶ岳スーパートレイル200kmの一部ではあったが、その整備状態は不完全。これで200kmを歩ききるのは相当な困難が予想されるもののぜひやりましょう。次回はエリア10＝野辺山～松原湖　一気に30KMを予定します（秋か？）。　なお、今回は大分短縮して14kmでした。

以上